

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	墨田区太平保育園
施設所在地	墨田区太平 1 - 13 - 10

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『いろいろな素材に触れ作ることを楽しむ』

<テーマの設定理由>

日頃から子ども達がイメージをふくらませながら、園内で収集可能な素材を使いおもちゃなどを手作りして遊ぶことを楽しんでいる。自由に作って遊べる環境を工夫することで、造形遊びが更に豊かなものになり、物づくりへの興味や関心が広がっていくのではないかと考えたため。

2. 活動スケジュール

5月：保育室に制作コーナーを設定し、自由に作って遊ぶ。
7月8月：夏の遊びで色水やスタンプなどで遊ぶ。
10月：アートフェスティバル開催（絵具を使用し、園庭で様々な物にペイントをして遊ぶ）
11月：より造形活動が発展するように、保育者間で話し合い町工場の素材を使って作る事を楽しめる場を提供する「あそび大学」を招くことを決める。
12月：「あそび大学」から町工場の素材（布・プラスチック容器・皮・発泡スチロール・紐・箱・厚紙等）を提供してもらい、ホールで4・5歳児の子ども達が自由に造形遊びを体験する。
1月：12月の経験後、作ったものでごっこ遊びの展開もみられた。造形活動がさらに豊かになるように、引き続き制作コーナーを充実させる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

画用紙・折り紙・セロハン・空き箱・段ボール・のり・セロテープ・ガムテープ等を自由に使えるのよう
に、クラスの中に設定した。

「あそび大学」を招き、豊富な素材に触れ、作ることや遊ぶことを楽しめる経験の場を設定した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・日常の遊びの中で、自由に作って遊ぶ。
- ・イベント「アートフェスティバル」
- ・「あそび大学」が提供した町工場の素材を使って作る。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・自由に作る中で、自分の作品を友だちに見せたり、作ったもので遊ぶ姿が多くみられた。
・園にある素材だけでなく、自宅からお菓子の空き箱や空き容器などを持ってくる子どもたちが増えていった。制作コーナーに持ってきた素材を入れる「何でもボックス」を置き、自由に使えるようにした。「これでなにか作れるね」と日常生活の中で素材を見つけるようになっていった。
・「あそび大学」が沢山の素材を用意しホールに並べると、種類と数に驚く子ども達は「何これおもしろい！見たことないね」と言って、触って感触を楽しみ、何をどう作ろうかとわくわくしている姿があり、作る過程も楽しめていた。また子ども同士が作品を見せ合い「これどうやって作ったの？」「すごいね」と笑顔で関わり、一緒に作った作品で遊ぶ姿が多く見られた。
・作ったものをきっかけにごっこ遊びが展開されることもあり「一緒にあそぼう」と異年齢のかかわりもみられていた。



5. 振り返り

< 振り返りによって得た先生の気づき >

- ・子ども達は、造形といってもプロセスにすべてが同じ姿はなかった。子ども達の柔軟な姿や豊かな発想を保育者は尊重していきたいと思った。
- ・素材などをいつでも使える環境が、子どもの発想を活動につなげるために大切であり、環境設定に力を入れていきたいと思った。
- ・あそび大学で、見たことのない素材に触れた事、数や種類が多い事で、物作りにあまり関心のなかった子も、夢中になる姿があった。素材の豊かさが、作りたいという意欲を引き出し、遊びの広がりにつながることを感じた。